

プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

2011 年 2 月 9 日号 (Vol.14)



はじめに

1. シエラレオネの法・ポリシー策定に協力

2. 本邦研修レポート

3. プロジェクト進捗

3.1 キャパシティアセスメント

3.2 モデルワード事業：パイロットプロジェクト

3.3 モデル県事業：フィーダー道路・カルバート改修計画

3.4 研修計画

4. 新プロジェクトダイレクター県議会を訪問

5. コラム

5.1 シエラのチカラ：村のトイレ？それともシャワールーム？

5.2 シエラのチカラ：日本で「シエラのチカラ」を発揮 本邦研修編

5.3 シエラのチカラ：連帯感と暖かさで未来を切り拓く

5.4 ごっつあんです！シエラレオネ 第11話：シエラで食べれるスイーツ！



シエラレオネ



プロジェクト対象県

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

はじめに：

現在シエラレオネにはハマターンの季節が到来しています。ハマターンとは、ハルマタンと呼ばれる季節風のことで、アフリカ大陸では11月～3月にかけて地中海からギニア湾・大西洋に向けてサハラ砂漠を横断して吹くといわれます。シエラレオネでは例年1月から2月にかけてハマターンが吹くといわれています。サハラ砂漠から細かな粒子の砂・粉塵が飛んできますから、昼間でも遠くの景色がかすんで見え、部屋の中は短時間で砂埃がつもる季節でもあります。



ハマターンでいつもは正面に見える海が見えない（首都フリータウンにて）。

さて、1月に入り、久保嶋専門家（コミュニティ開発）、吉野専門家（業務調整/研修計画）に1月26日に着任した宿谷専門家（道路計画/調達制度）、近藤専門家（キャパシティアセスメント/コミュニティ開発）が加わり、本プロジェクトの専門家チームは、プロジェクト開始以来最も専門家数が増え、カウンターパートへの支援体制は益々強力になりました。今年の2月から3月までは、プロジェクト5年間で最も支援案件数が多い時期です。これからいくつかある山頂の一つを、プロジェクトチーム一丸となって無事登頂できるように、これからも尽力していきます。（平林リーダー）

ニュース 1：シエラレオネの地方自治法改訂・村落開発ポリシー策定に協力

2011 年も早いもので、1 ヶ月以上経ちました。シエラレオネ本省の御用納めは 12 月 31 日で、新年の御用始めは 1 月 4 日でした。1 月早々、カウンターパートである地方自治地域開発省で今年初めての会議が開かれ、冒頭大臣から挨拶がありました。そのうち、「今年 4 月 27 日の独立 50 周年記念日までに、ひとつでも多くの成果が残せるように尽力して欲しい。一つ一つの事業に明確な期限を設けて行動計画を策定するようにして欲しい。」との訓示がありました。政治家として独立記念日までに出来る限りの成果を国民に見せていく姿勢は当然といえます。それに伴い本プロジェクトへの期待も日々大きくなっていることを体感しています。同会議の席で大臣から本プロジェクトに対して直々に、「CDCD プロジェクト活動の経験を今年早々に計画している地方自治法の改訂や村落開発ポリシーの策定に活用して欲しい」との協力要請を改めて受けました。



地方自治地域開発省が入っているビル。

特に地方自治法の改訂案は 1 月中にまとめるため、これまでのプロジェクトの現場経験から得た教訓をもとに、1 月中旬に地方自治法改訂にかかる提言をまとめ本省に提出しました。これもプロジェクト専門家がカウンターパートに対して支援している日々の尽力の賜物です。提言の主な内容ですが、地元開発計画策定の要となる住民代表者からなるワード委員会のメンバーの構成、役割の明確化、ワード委員会への必要な支援体制について提言しています。地方自治法改訂の今後の動向ですが、2 月中に最終改定案をまとめ閣議に提出されます。本プロジェクトの提言がこの国の地方自治法の改訂にどれだけ貢献できるかフォローしていきます。また、本省のもう一つの機能である村落開発(Rural Development)ポリシー策定のタスクフォースメンバーとして、この国のポリシー策定に協力しています。

これらの支援は「地方行政を通じた村落開発の体制を強化する」という本プロジェクトの目的達成のための重要な活動でもあります。日々積み上げている現場活動から得た教訓と、その国の法・政策の策定や改訂を結び付けることが本プロジェクトの強みです。そしてシエラレオネの国作り、人作りに少しでも貢献できれば何もうことはありません。これからも関係者との協力関係を強固にして、その強みを大いに発揮していきます。

(平林リーダー)

ニュース 2：本邦研修レポート ―反町専門家が日本から実況中継―

本プロジェクトのカウンターパート機関の 1 つである、カンビア県議会からアブドゥラマーン氏（人事官）が本邦で実施されている地域別研修「生活改善アプローチによる農村コミュニティ開発」コースに研修員として参加しています。



グループワークの発表をするアブデュール氏（写真左）。なごみの里で熱心に説明を聞き入る研修員（写真右）



この研修は来日する前にテキストやマルチメディア教材で学習し、自国での問題を抽出し実施可能な生活改善活動を考え、インセプションレポートを作成します。

日本では、インセプションレポートの発表から始まり、実際の生活改善活動についての講義、演習、研修員間の討議および現場視察などから自国で実施可能なアクションプランを作成します。研修を通して学んだ知識と策定したアクションプランを自国へ持ち帰り実践していくことになります。一口に生活改善といっても、栄養・保健衛生・住居・所得向上など様々であり、普及技術や行政支援のノウハウなど多岐に亘る分野が研修内容となっています。

アブドゥラマーン氏は真剣に講義を受けており、他の研修員とも熱い議論を交わすなど積極的に研修に参加しています。アブドゥラマーン氏を含む多くの研修員は地方行政機関職員ということもあり、現地視察の際には普及員の方の話を熱心に聞いていました。同じ職に従事する方の話には特に感銘を受けていたようです。

研修は折り返し地点を過ぎ、現在はアクションプランの作成に奮闘中のアブドゥラマーン氏。研修終了時にどんなアクションプランの発表をするか楽しみです。

最後に番外編を少々お伝えします。研修員の皆さんが日本の食文化を体験しました。日本の伝統料理である巻き寿司作りに挑戦！慣れない手つきで、海苔とご飯と格闘。出来上がったお寿司はお見事です。



講義同様熱心に花巻き寿司作りに挑戦（写真右）。花巻寿司：うまく出来ました（写真左）。

（反町専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当）

ニュース 3：プロジェクト進捗

今年度はカウンターパートの現状を把握しつつ、専門家がカウンターパートに対し「やってみせる」ことで、課題を抽出し、県・村落開発モデル案の構築となるいわば「ネタ」を集めている段階です。来年度以降本格化するカウンターパートに「やらせてみる」という技術移転の基礎を固めている段階ともいえます。それでは、日々現場で活躍する各専門家の活動と事業の進捗状況をお伝えします。（編集長）

2010 年度実施予定の主な事業		
主な事業	予定	進捗状況
モデルワード開発プログラム： パイロットプロジェクト実施を通じたワード委員会・県議会のキャパシティアセスメント	カンビア県 25 件、ポートルコ県 7 件（社会・経済基盤整備）のパイロットプロジェクト支援を通じ、ワード委員会・県議会のキャパシティアセスメントを行う。同時に来年度から開始するモデル事業のためのモデルワードを選定する。	アセスメント体制の整備。 工事進捗：フェーズ 1&2(11 件)：パイロットプロジェクト 8 件完了, 3 件実施中。 フェーズ 3&4(21 件)：パイロットプロジェクト調達開始。
モデル県開発プログラム： フィーダー道路・カルバート改修工事を通じた県議会の実施体制整備	県議会及び道路局の現状把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ 1 第 1 ターム（2011 年 5 月末まで） カンビア県：フィーダー道路計 17Km, カルバート 13 箇所 ポートルコ県：フィーダー道路 12.7Km, カルバート 7 箇所	課題の抽出とまとめ。 工事進捗：県議会の 4 社と契約締結。現場での工事準備開始。

3.1 キャパシティアセスメント　ーモデルワードを選定するためのパイロットプロジェクトー

現在試験的に支援している 32 ワードから県・村落開発モデルを構築するために実施するモデル事業の対象 12 ワードを選定するための判断材料の一つとなる各ワード委員会／PMC（プロジェクトマネジメント委員会）のキャパシティアセスメントを、県議会職員と本プロジェクトチームで準備中です。各ワードを 2 回巡回する予定です。第 1 回目は目的や確認項目の情報共有、第 2 回目はキャパシティアセスメント結果の判断材料の一つとする予定で、PMC およびコミュニティへのインタビュー調査を実施しています。第 2 回目で使用する予定のインタビュー調査票は、現在実施中の第 1 回目の調査でも試験的に使用しています。この試験使用を通じて、より良い地域開発のための重要な視点を、県議会職員やワード委員会やコミュニティの人々と共有していければと考えています。



第 1 回目の試験的インタビュー調査を実施する県議会職員（右）

例えば、インタビュー質問票では、「ワード委員会とコミュニティはどれぐらいの頻度で協議をしていますか」というような質問があり、ワード委員会メンバーとコミュニティ双方に聞く事としています。このような質問に対し、回答者は「きちんとしている」「毎月開催される県議会にはワード委員会からも出席しており、この結果は、常にコミュニティへ伝達している」と言っています。このようにキャパシティアセスメントとして確認している事は、ワード委員会とコミュニティの協働は地域開発の重要な視点の一つであるという事の表れです。この事が少しでもより多くの地域の人々に伝われば良いと考えています。

もちろん、インタビュー調査に対して良い回答を出そうとする回答者が多いのも事実で、実際の作業や書類の確認等による精査も必要です。本プロジェクトへ提出すべき書類についてインタビュー調査をすると、「準備はできている」「もうすぐ提出するつもりだった」というような回答をするワードがほとんどです。第 1 回目の試験的实施で、このようにリマインドをする事により、第 2 回目までにはしっかりと予定通りに準備を進めてくれればと考えています。

そして最終的には中立的な立場で 32 ワードの評価点を出し、12 のモデルワードの選定を進めていかなくてもいいかもしれません。モデルワードに選定されれば、そのワードは嬉しいでしょう。それだけでなく、モデルワードに選定されなかったワードについても、モデルの普及が図れるような仕組みを考えていけるよう尽力したいと思います。

（近藤専門家：キャパシティアセスメント/コミュニティ開発担当）

3.2 パイロットプロジェクト支援　ー県議会調達官の奮闘ー

1 月も後半に入り、パイロットプロジェクトの工事がいよいよ開始され始めましたが、年末から年始にかけては工事に必要な物資の調達で県議会調達官が大いに活躍しました。カンビア県の調達官は、ただでさえ 1 人で 17 のパイロットプロジェクトの全調達を遂行しなければならないという超多忙状態でしたが、年末からマラリアに罹ってしまい、作業が滞っていました。そこでプロジェクトからも書類作成を中心に彼の作業を補助し、マラリアで寝込んでいる調達官に書類の確認と署名をしてもらうために出勤してもらうということもありました。彼の仕事に対する責任感には敬服しました。

またポートロコ県議会では4のパイロットプロジェクトしかありませんが、調達官が誤った調達プロセスのフォーマットを使用してしまい、発注を行ってから修正作業を行うというハプニングもありました。また、議員の中には調達法をあまり理解しておらず、自分の息のかかった業者ではないと認めないと駄々をこねることもありました。さらに業者からの納品は遅れに遅れ、ようやく完了したかと思えば、物品の仕様の違いが続出でした。しかも請求書は間違えだらけです。カンビア県及びポートロコ県での調達は並大抵の苦勞ではありませんが、我々からの助言・デモンストレーションを通じて調達官たちの能力向上につながればと思います。あわよくば業者の能力も向上して欲しいものです。



奮闘する県議会の調達官

(久保嶋専門家：コミュニティ開発担当)

3.3 フィーダー道路・カルバート改修工事 ー動き出した改修への道ー

フィーダー道路は、地域内を結ぶ道路で、住民の生活の質の向上や地域開発のために必要な道路です。ポートロコ県、カンビア県内の道路は、アスファルト舗装は皆無で、土砂で覆われた道路は穴だらけです。整備には、広域の視点で道路が網としてつながるように計画を立て、実施していくことが重要です。フィーダー道路・カルバート改修工事では、両県議会における道路計画を含む県開発モデルの策定と道路整備における実施能力の向上を目的としています。

さて、昨年9月に始まった道路改修工事では、年末に両県の4サイトについて工事業者を選定し、1月17日に契約書に署名をしました。いよいよ業者による工事の開始となります。



Abu氏（左端）による村人への工事の説明。県議会エンジニア（右から2番目）も一生懸命聞き入る。

今年1月は、起工式、工事測量、道路脇の草刈り等を実施しました。起工式は、すべての4サイトにおいて、県議会職員、業者、プロジェクトメンバー、住民の参加のもとに開催されました。式は、県議会職員による道路改修の意義、エンジニアからの工事方法説明、コミュニティからの謝辞等により構成され、ポートロコ県では、最後に住民から県議会側に貴重なお米一袋とヤギー頭が贈呈されました。住民の道路改修への期待の高さの表れともいえるでしょう。



起工式にて：コミュニティからヤギー頭、米一袋が贈呈されました。

工事の開始に伴い、県議会/本プロジェクトチームにて施工監理をする必要があります。まず、毎日現場に貼り付き、毎日の施工数量、進捗の確認をする Clerk of Works という役割の技術者を3人雇いました。県議会・プロジェクトのエンジニアは、彼らの報告を確認し、必要に応じて指示をします。

本プロジェクトは、県議会職員の事業管理能力の向上が目的です。現在県議会のエンジニアは一人ずつです。雇用されたばかりで、その能力もまだ十分ではありません。そこで、現在は本プロジェクトでエンジニアを雇用し、カウンターパートに「やってみせる」ことで、On the Job Training (OJT)にて技術移転を図っています。その後は、カウンターパートに「やらせてみる」段階に入っていくことになります。

本プロジェクトで雇用しているエンジニアの Abu 氏は、EU のプロジェクト経験もあり、知識も豊富です。ただ、当初は、その経験が時には邪魔になり、県議会職員に対し上から物を云うとか、県議会職員と調整せずに自分でやってしまう面も見られました。

本プロジェクトは、シエラレオネでのやり方を尊重した上で、県議会職員の能力向上を図ることが目的です。ですから、プロジェクトチームは出来る限り裏方に徹する必要があります。当初、このやり方を Abu 氏は理解できずに、また、厳しい工程の中、四苦八苦していました。日本人専門家も常に現地にいる訳ではなく、彼抜きにはプロジェクトの成功は考えられません。根気よく説明を続けた結果、彼自身もレベルの違う県議会エンジニアの成長に少しずつ喜びを見出せるようになってきました。例えば、起工式では、技術的な説明においても県議会エンジニアができるところは一任し、そのサポートをするようになってきました。ただ、県議会職員も忙しく、調整にはいまだ一苦労しています。



業者による測量。工事の一番初めの作業で村人も雇用される。

本プロジェクト期間終了後は、県議会独自で事業を実施します。その時には、県議会エンジニアの能力がある程度向上し、体制整備がある程度進んだとしても、引続き外部コンサルタントの支援が必要である可能性があります。県議会では職員でまかなえない特殊技能を要する人材は契約ベースで雇用することになっています。その時には、個人コンサルタントである Abu 氏のような技術者の協力が必要になります。今のうちから、良い関係を築ければ、将来のシエラレオネの道路整備の方向も見えてくることでしょう。この両者の関係の構築もプロジェクトの目的でもあり、今後の楽しみです。

(宿谷専門家：調達制度・道路計画担当)

3.4 研修計画 —ITトレーニング指導間近！—

晴れて私のカウンターパートとなった各県の人事官（Human Resource Officer）や他県議会職員とトレーニング内容について話をすると、IT トレーニングについての要望が多くあがってきます。また、現場で活動する専門家からも「職員の事務レベルを上げるためには、IT トレーニングが必要」との意見も多数聞かれます。



私も自身の活動を通じて県議会職員や取引のある一般業者の事務レベルを観察していますが、やはり基本 IT スキルが無いために、簡単な計算間違いをしたり、書類の内容に間違いが多かったりしていると感じています。

そこで、本プロジェクトでは県議会職員に対して IT トレーニングを行うこととしました。他の JICA プロジェクト、DECSEC(地方分権化事務局)等も同様のトレーニングを行っていますが、本プロジェクトでは実務に即した資料を作り、即現場で活用できる知識を中心にテキストを作成しました。

その第一弾として、Microsoft 社の Word2007 を利用した「Word2007Basic」を作成し、2 月中旬にまずポートロコ県議会職員へトレーニングを行います。現時点での計画では、各県の人事官に本トレーニングのトレーナーとなってもらべくトレーニングを実施し、他県議会職員へのトレーニングは同人事官に実施してもらう予定です。

次回は、人事官へのトレーニングの様子をレポートいたします。

(吉野専門家：業務調整/研修計画担当)

ニュース 4：新プロジェクトダイレクターが県議会訪問

1 月 20 日、21 日と本省の副大臣がポートロコ県・カンビア県両県議会を訪問しました。同副大臣は昨年 12 月の内閣改造に伴い、本プロジェクトのプロジェクトダイレクターに着任したばかりです。一方県議会では県議会では昨年、数名の職員が着任しプロジェクト活動でも活躍しています。今回の副大臣会訪問は、新プロジェクトダイレクターとしてのご自身の紹介と、県議会の新職員に対して本プロジェクトの目的・活動の意義を共有し、体制を強化するためのオリエンテーションとして位置づけ実施されました。

県議会主席行政官から本プロジェクトの目的や活動内容が新職員に対して説明が行われ、プロジェクトの方向性が関係者間で確認されました。また、本プロジェクトで進捗が遅れているワードの問題の原因や対処方法についても協議され、非常に有意義な機会でした。副大臣からは具体的な解決策の提言がありました。

この提言を受けて、後日、カンビア県では、学校建設工事が遅れているワードに対して県議会が県の教育補助金を活用して、工事費の補填し工事進捗管理を支援することや、住民動員の働きかけを強化するなど、非常に具体的な対応策が県議会から提示されました。これら県議会の具体的な提言を尊重し、今後の進捗をフォローしていきます。これも地方行政と地域住民が協働する地域開発の重要なプロセスです。副大臣の助言が非常に有効でもありました。本省、県議会が円滑に協力し地域開発を進める好事例になればと思います。

最後になりますが、副大臣のユニークなプロフィールをご紹介します。副大臣は 90 年代前半まで地方のセカンダリースクールの校長を務めていましたが、内戦後学校が閉鎖されたため、休職の身分となりました。その直後からタクシードライバーとして地方を行き来し、数ヶ月間生計を立てました。その後教育省本省で勤務することになり、今日に至っています。副大臣の温和で親しみやすい人柄は過去の経歴とも関係しているのだと思います。

(平林リーダー)



現場視察する副大臣。



県議会職員との会議。左が副大臣。

コラム：シエラのチカラ ー村のトイレ？シャワールーム？ー by 近藤 専門家

先日、村でトイレを借りました。すると、案内されたのは、周りを萱で囲まれた、どこにも穴の開いていない縦横 2m 程の部屋。下に水が浸透していくようにコブシ大のコンクリート片や砂利が敷き詰められていたり、少し小高いブロックの上に足をおいて濡れた小石を踏まなくても済むように、様々な工夫もされていましたが、これがトイレなのでしょうか。

久保嶋専門家も、村でトイレを借りようとする、毎回このような部屋に案内されるそうです。そして、専門家で話して、達した結論は、「あれはシャワールームではないか」と。

村の人達は、シャワールームもトイレとして使うのでしょうか。まだまだ謎の多いシエラレオネです。

ちなみに別の同じような萱の囲いの中も覗いてみたところ、きちんと穴の開いたトイレもありました。穴の開いたトイレもあるのであれば、何故、日本人はシャワールームのようなトイレの方に案内されるのでしょうか。まだまだ謎の多いシエラレオネです。これもシエラレオネのチカラでしょうか。



穴の開いていない、砂利を敷き詰めたトイレ？シャワールーム？



コンクリートスラブの中に穴の開いたトイレ

コラム：シエラのチカラー日本で「シエラのチカラ」を発揮：浅草観光とホッカイロー by 反町 専門家

来日後の初めての休日。寒空の中、アブドゥラマーン氏を東京観光に連れ出しました。行き先は定番中の定番、浅草です。到着後、まずは正面から雷門を拝見・・・とここで、外国の方を対象に取材をしている人たちに遭遇。なんでも外国の方がホッカイロに出会ったら、どんな反応をするのかを取材しているとのこと。

というわけで、アブドゥラマーン氏は取材を受けることに。ホッカイロといえば、日本では冬の定番とも言える商品。このホッカイロ、日本独自のもので海外にはないそうです。

ホッカイロという白い物体に初めて出会ったアブドゥラマーン氏。おっかなびっくり触った反応は期待を裏切らない驚いた反応。熱を発する白い物体はかなり驚きだったようで、不思議そうにホッカイロをさわっていました。寒い日本で出会ったあったかいホッカイロはなかなか気に入ったようです。



浅草寺にて見よう見まねで煙をかける（写真右）。英文解説つきのおみくじには「100 人の兵士を従わせる、、、」とありました（写真左）。



さて、メインの浅草観光ですが、浅草寺、仲見世通り、建築中のスカイツリー、秋葉原電気街などなど、沢山の名所を巡り楽しんでもらえたようです。

コラム：シエラのチカラ ー連帯感と暖かさで未来を切り開くー

「携帯電話とられるよ！前のポケットにしまうか、カバンに入れてしっかりチャックも閉めなきゃ！」。シエラに到着してびくびくしていたころ、通りすがりのシエラ人が、私のズボンの後ろポケットにしまわれた携帯電話を指さして言った言葉です。急なことでボサッと言われるがままでしたが、そのあとその人の優しさをしみじみと実感して、嬉しくなったのを覚えています。今思うと、シエラで過ごした間、似たような事が多々ありました。携帯電話については4回ほど同じ注意を受けましたし（いい加減後ろポケットにしまう癖を直しましたが）、フリータウンの露店では、買い物を済ませてしばらくたってから、店主が店に忘れた私物を届けるために追いかけて来てくれた事もあります。フリータウンの喧騒はすさまじいもので一見気押されるのですが、一人ひとりのシエラ人はとっても親切です。

そして、シエラ人のネットワークはこれまた凄まじい。例えば、プロジェクト運転手のレミーさんは、どこに行っても知り合いが居て、いつも手を振り、車の窓を開けて「どうよ最近」と言っています。プロジェクトが実施されているカンビアからフリータウンまでは200キロ弱ありますが、フリータウンでもあちこちで人に手を振っています。人が困っているといつの間にか一緒に悩む。困難には一緒に立ち向かう。そんなシエラ人の気質が、友達の友達は友達、家族の家族は兄弟姉妹という連帯感を生んでいるように思います。



シエラは度々、「貧しい国」と言われますが、彼らの温かみを知ってしまうと、貧しい理由が何となくわかります。商売下手、嘘つくのも出し抜くのも下手。でものんびりした温かい国だなあと思わない日はありません。この国の温かい連帯感が、この国の未来を変えると今は信じる事ができます。シエラの力ここにあり！

コラム：ごつつあんです、シエラレオネ 第11話ーシエラで食べられるスイーツー by ひらしゅらん

「たまには甘いもの食べたいな〜。」そんな欲望を満たしてくれるお店がシエラレオネにもありますよ。それは大阪に何度も行ったことがあるというレバノン人夫婦が経営するこじゃれたカフェ&レストランです。週末は外国人、しかも女性が沢山やってきます。お店の中は冷房が効いて、こぎれいです。店員さんの対応もとってもフレンドリーで好感度がさらにあがります。

初めてこのお店でパフェを頼んだとき、どんなものが出てくるか不安でした。とにかく「パフェであって下さい」と祈るしかありません。そんな心配は無用でした。目の前に現れたのは、アイスクリームてんこ盛りのパフェ。まさにそそり立つスカイツリーのようなパフェは圧巻です。素晴らしい！急いで食べないと、アイスクリームがたれてくる。でもおいしーい！こんなうれしい悲鳴を上げながら満喫できる一品です。



ケーキとカプチーノはいかが？



首都フリータウンにそそり立つパフェ

他にもありますよ！ケーキはいかが？しかも泡たっぷりのカプチーノと一緒にどうぞ。見た目は甘そうですが、食べてみると以外にも甘さ控えめで、糖分を気にする方でも大丈夫。

このお店の魅力は、誕生日ケーキも注文に応じて作ってくれることでしょう。レバノン人のパティシエが見事に要望にこたえてくれます。

キティちゃんの誕生日ケーキを見たときには驚きました。シエラレオネにキティちゃんがいた！しかも1つどころじゃありません。無数のキティちゃんがケーキの上に乗ってるではないですか？誰の誕生日か聞いたところ、レバノン人家族の女の子の誕生日ケーキだそうです。祝ってもらう子はうれしいでしょうね～。それにしてもレバノンの人たちがやるのが派手です。でもキティちゃんケーキの味はわかりません。次回誰かの誕生パーティーに出席して、味見させていただきたいものです。



誕生日ケーキには無数のキティちゃんが！

このお店、甘いものだけではなくありませんよ。おいしいレバノン料理やコンチネンタル料理も揃っています。これまた量が多くて、うれしい限りです。質・量共にいうことありません。幸せな時間を過せるお店をまたひとつご紹介できてうれしい限りです。是非、おいしいパフェを堪能ください。



食事もおいしい。

お店：Bliss Patisserie, Wilkinson road, Freetown

ひらしゅらんの独断と偏見の評価：★★★★★。総合点で文句なしに5つ星！

(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上（CDGD）プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：内務地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年11月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：内務地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整/研修計画専門家、宿谷調達制度/道路計画専門家、久保嶋コミュニティ開発専門家、近藤キャパシティアセスメント/コミュニティ開発専門家（2011年1月実績）